

2016 年度第 2 回日本画像学会技術研究会(通算 128 回)

インクジェット技術部会は『インクジェットインクの基礎から応用』 - 技術の誕生, 進化, 将来 - というテーマで, 2016 年度第 2 回技術研究会(通算 128 回)を 2016 年 9 月 30 日に発明会館ホールで開催した. 参加者は 134 名(会員:88, 非会員:45, 学生:1)であり, インクジェットをテーマとした技術研究会としてはこれまでで最も多い参加者となった.

2015 年の技術研究会は, インクジェット市場の変化・拡大に伴う新たな課題に, ヘッドは過去 5 年どう取り組んできたのか, この先 5 年どう取り組んでいくのかをテーマとした. 今年はインクの立場から, 市場変化とインク技術進化の関係をとり上げる研究会を企画した. 講師には各インクの基礎的な知識, 歴史も講演内容に盛り込んでいただき, インク技術を俯瞰する好適な技術研究会となった. また, 注目度が高い今年の drupa の出展内容もインクの立場から報告した.

技術研究会から見えてきたのは, 市場の変化による新たな課題にヘッドは自らの技術進化で応えてきたのに対し, インクはインクの技術進化が市場の開拓や変化を起してきたという立場の違いである. 今回, 多くの方に関心を持っていただき研究会に参加いただいたのは, インク技術の市場への影響力の大きさを認識しているからかもしれない.

技術研究会での講演者と講演テーマを以下に示す.

「インクジェットの技術進化論」

藤井 雅彦 (インクジェット技術部会)

「インクジェット用水性インクの歴史と技術」

林 広子 (セイコーエプソン)

「ワイドフォーマットインクジェットプリンター用インクの歴史と技術」

間 清二 (東洋インキ)

「Drupa2016 レポート - インクから見たインクジェット印刷の最新動向 -」

岡田 真一 (DIC)

「UV インクの基礎と特許から見たインク設計」

朝武 敦 (コニカミノルタ)

「デジタル捺染の色材とインク設計」

城田 衣 (キヤノン)

「水性顔料インクにおける着色微粒子の特性」

高橋 茂樹 (花王)

講演終了後, 「実はここが知りたかったインクジェットインク」というテーマで昨年に引き続き座談会を開催した. 司会者のテンポ好い進行もあり, インクに関連した様々な話題に対する意見交換が出来, 1 時間の座談会は有意義に終了した.

年 1 度の座談会だけではなく, 日ごろからインクジェット技術に関する議論, 情報シェアが出来るよう, 個人会員を参加資格とした技術コミュニティ「インクジェット技術交流会」の設立を準備しており, 技術研究会で紹介した. SNS によるコミュニケーションや, 技術交流会メンバー向けのより深い技術講習会, トピックスを取り上げた WS, あるいは見学会も企画している. 今年度末を目標に交流会を立ち上げ, メンバー募集を行いたいと考えており, メールや日本画像学会の HP からもお知らせをする.

インクジェット技術部会主査:藤井雅彦 (富士ゼロックス)



写真 1 講演風景